8月4日　ヨハネによる福音書7章1～17節
「それは私の言葉ではない」

現在行われている近代オリンピックは、古代ギリシャにおけるオリンピックに起源を持ちます。古代オリンピックにおいて、ギリシャでどんな戦争や紛争が行われていてもオリンピックの時期になれば中断してオリンピアに集まることを「聖なる休戦」と呼んでいました。しかし現代のパリオリンピックは、戦争が行われる中での開催となってしまいました。いえ、小さな紛争までを含めると、オリンピックはどの時代においても、「すべての国が平和」な中で行われたものはないのかもしれません。

私たちは、平和を愛する信仰を持っています。しかし、平和を愛するキリスト教国が、平和を脅かす戦争を行っています。このようなねじれた状態の中で、私たちはどのような信仰を「正しい」と信じればいいのでしょうか。

今日の個所の最後の部分で、イエス様は自分勝手に何かを話しているのではなく、神様の言葉をそのまま人々に伝えていると語っています。イエス様は自分自身がいかに素晴らしい知恵を持っているのかを語っているのではなく、神様の真理をそのまま人々に伝えています。そこにイエス様の欲や都合も無ければ、ユダヤ人たちの都合もありません。ただ神様の正しさだけがそこにはありました。

全ての御言葉を「これは人間の言葉ではなく神様の言葉だ」と受けとめるからこそ、私たちは福音書の言葉が、ただ人間が書いただけの言葉ではなく、イエス様の誕生から十字架までを通して示された神様の御心であると信じることができます。旧約聖書からは、イスラエルの民の歴史だけではなく、イエス様のことを預言して、人々を、私たちを救おうとしていた神様の意志を感じることが出来ると思います。そして今日私たちが受ける聖餐式も、ただパンとぶどう酒を飲み食いするだけではなく、そこにイエス様が確かにいると受け止め、イエス様によって約束された、復活の命と天の国での新たな命が私たちにあることを、実感を持って受け止めることができるのです。

それらが、全て私たち自身の中から生まれた言葉ではなく「神様の言葉」であり、私たちの考えで行っている業ではなく「神様の望み」を受けて行われた業であるからこそ、私たちはこの信仰を堂々と歩み続けることができるのです。裂かれたパンによって、私たちはイエス様が受けた痛みと苦しみを思い起こし、それほどまでに苦しんででも、私たちを救おうとしたイエス様の愛を思い知ることが出来ます。分かち合うぶどう酒によって、私たちのために愛を示したイエス様の憐み深さと、私たちが渇きをいやされたように、私たちもまた誰かの渇きをいやすことが出来るようになる、その力強さを教えられるのです。

そのすべての恵みに強められながら、今週一週間の歩みを、これからの歩みを共に進めていきましょう。

今日の説教箇所：ヨハネによる福音書７章１～17節

- 1:その後、イエスはガリラヤを巡っておられた。ユダヤ人が殺そうと狙っていたので、ユダヤを巡ろうとはされなかった。時に、ユダヤ人の仮庵祭が近づいていた。イエスの兄弟たちが言った。「ここをたってユダヤに行き、あなたのしている業を弟子たちにも見せてやりなさい。公に知られようとしながら、ひそかに行動するような人はいない。こういうことをしているからには、自分を世に現しなさい。」兄弟たちも、イエスを信じていなかったのである。そこで、イエスは言われた。「私の時はまだ来ていない。しかし、あなたがたの時はいつも備わっている。世はあなたがたを憎むことはできないが、私を憎んでいる。私が、世の行っている業は悪いと証ししているからだ。あなたがたは祭りに上って行くがよい。私はこの祭りには上って行かない。私の時がまだ満ちていないからである。」こう言って、イエスはガリラヤにとどまられた。
- 10:しかし、兄弟たちが祭りに上って行った後で、イエスご自身も、人目を避け、ひそかに上って行かれた。祭りのときユダヤ人たちは、「あの男はどこにいるのか」と言って、イエスを捜していた。群衆の間では、イエスのことがいろいろとささやかれていた。「良い人だ」と言う者もいれば、「いや、群衆を惑わしている」と言う者もいた。しかし、ユダヤ人たちを恐れて、イエスについて公然と語る者はいなかった。祭りもすでに半ばになった頃、イエスは神殿の境内に上って行き、教え始められた。ユダヤ人たちが驚いて、「この人は、学問をしたわけでもないのに、どうして聖書をこんなによく知っているのだろう」と言うと、イエスは答えて言われた。「私の教えは、私のものではなく、私をお遣わしになった方のものである。この方の御心を行おうとする者は、私の教えが神から出たものか、私が勝手に話しているのか、分かるはずである。